飛鳥びと

2025年 春・夏号 No.20

p2●スペシャルインタビュー
病をみる、人をみる、地域をみる
武田 以知郎

p3●令和あすか塾《特別寄稿》清水昭博
渡来系氏族・東漢氏と檜隈寺

p4●飛鳥の若びと
飛鳥地域プロガイド 岡本 直子

p5●飛鳥の継ぎびと
お寺を守り継ぐため
SNSを通して魅力を発信

題字／烏頭尾 精
写真「飛鳥川」／上島春雄

「飛鳥・藤原まるごと博物館」検定 合格への道
最年少の飛鳥応援大使が挑戦！

令和6年12月14日、第2回検定を開催しました。今回は初級編と、初級編合格者が受検できる中級編を、飛鳥・藤原会場、奈良会場・東京会場の3会場で実施しました。

受検会場には、付箋をたくさん付けた検定公式テキストブックを見直す方や、ご自身で作成されたオリジナルテキストにあらためて目を通される方などがおられ、緊張感が漂っていました。

その中に、当財団の最年少飛鳥応援大使、酒井智恵莉さん（13歳）の姿がありました。飛鳥が好きでお母様とよく訪れていたことから、検定にもチャレンジしようと思った酒井さん。受検結果が発表された後は、「今回は残念な結果だったけど、来年は絶対に合格したい！」と、早くも次の受検に意欲を見せてくれました。

来年度はいよいよ、上級編も始まります。皆様のチャレンジをお待ちしております。

酒井智恵莉さん（検定会場にて 令和6年12月14日撮影）

過去問に挑戦！（第2回初級編の20問目・中級編の43問目）

Q キトラ古墳壁画にあり、高松塚古墳壁画にない画題はどれか？
ア. 男子群像　イ. 女子群像　ウ. 十二支　エ. 四神

Q 酒船石遺跡の亀形石造物の頭の向きはどちらか？
ア. 東　イ. 西　ウ. 南　エ. 北

※正解は古都飛鳥保存財団のHPをご覧ください。

飛鳥・藤原会場

活動報告 Activity Report 〈帝塚山大学連携イベント〉飛鳥の考古学

檜隈寺跡にて

令和6年9月14日に帝塚山大学との連携で、同大学文学部の清水昭博先生による飛鳥の考古学「渡来系氏族・東漢氏と檜隈寺」を実施しました。（詳細はP3）

活動報告 Activity Report 〈奈良大学連携イベント〉飛鳥周遊ウォーク

奈良大学文学部教授の相原嘉之さん

令和6年10月12日に奈良大学との連携ウォークイベント「飛鳥の宮跡を巡る」を実施。同大学文学部の相原嘉之先生と、秋晴れに恵まれた明日香村内を1日かけて歩きました。「豊浦宮跡」から「水落遺跡」・「石神遺跡」を経由し、飛鳥寺に向かいました。西門の大きさを実感し、どこに「槻の木の広場」があったかを考察しながら、万葉文化館にある「飛鳥池工房遺跡」と「酒船石遺跡」を訪れました。午後の部は、お昼休憩をした飛鳥京苑池から4つの宮跡が検出された「飛鳥宮跡」、エビノコ郭、祝戸地区にある「飛鳥稲渕宮殿跡」、最後に「島庄遺跡」を確認し、飛鳥周遊を終えました。

飛鳥宮跡にて

お知らせ News 高松塚壁画館 冬季企画展開催

当館では、毎年冬季企画展（パネル展）を開催しており、2025年は「飛鳥・藤原」の世界遺産登録に向けて、「檜隈地域の世界遺産」をテーマに紹介しました。夏以降の企画展でも「飛鳥・藤原の宮都」に関連したテーマでのパネル展示を予定しています。皆様のご来館お待ちしております。

高松塚壁画館 Instagram

お知らせ News 無住社寺の修復や文化活動に助成しています

令和6年11月26日、明日香村稲渕にある龍福寺の修復助成と、文化協会や商工会、伝承芸能保存会への文化向上に関する助成の目録授与式を行いました。明日香村の歴史的風土、景観を維持するため、財団では無住社寺に対して、住民負担修復費の一部を助成しています。また、伝承芸能の保存や後継者の育成、地域住民の文化向上活動にも助成しています。

〈個人特別会員募集のご案内〉

飛鳥地方に残る貴重な歴史的文化遺産の保存とその活用を目指し、様々な事業を行うとともに、後世に引継ぐことを使命に活動しております。その保存と未来への継承のため皆様のご支援とご協力をお願いいたします。詳しくは財団ホームページをご覧ください。

編集後記　今号の表紙写真は「明日香路を写そう写真コンクール」第43回入賞作品「水流の演奏」です。春夏号にぴったりな、季節を感じることができる写真を選びました。

Panasonic　奈良交通　MIYAKO HOTELS & RESORTS　近畿日本鉄道株式会社　奈良大学 NARA UNIVERSITY

発行・お問合せ 公益財団法人 古都飛鳥保存財団
〒634-0138　奈良県高市郡明日香村大字越13-1　TEL：0744-54-3338　FAX：0744-54-3638　E-mail：info@asukabito.or.jp
編集制作／合同会社EditZ

※本誌の記事、写真の無断複写・転載を禁じます。※本誌記載内容は2025年3月現在のものです。

公式HP　公式Instagram　KOTO_ASUKA

お寺を守り継ぐため SNSを通して魅力を発信

日本最初の厄除け霊場であり、西国三十三所観音霊場の札所として1300年以上の信仰を集める岡寺。ここ数年、若い参拝者の姿が目立つように。その理由を、副住職の川俣海雄さんに伺いました。

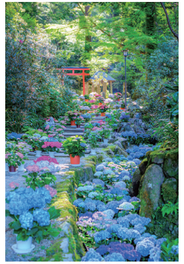
昨今話題になっているのが岡寺の「華手水舎」。色とりどりの天竺牡丹（ダリア）を手水舎に浮かべた様子が「インスタ映えする」と、若い層を中心に注目を集めています。

岡寺のSNSを担当するのは、副住職の川俣海雄さん。2009年に、父親である住職からお寺の情報発信や宣伝活動を引き継ぎました。当時、ほとんどのお寺がホームページを持っていないなか、川俣さんは自らホームページを作成し、積極的に情報を発信。「学生時代からカメラで撮影するのが好きだったので、季節の花の写真を撮って載せていました」。しかし、ホームページは岡寺を知っている人にしか見てもらえていない。そう悩んでいたところ、出会ったのがインスタグラム。当時はお寺の公式インスタグラムはほぼありませんでした。

2016年春に、華手水舎の写真をインスタグラムに載せたところ、たくさんの「いいね」がつきます。ちょうどインスタ映えが流行していた時期で、一気に知名度が上がりました。「学生やカップルなど、これまで岡寺に来なかった若い人たちがスマホ片手に訪れるようになり、彼らが写真を投稿することでどんどん参拝者が増えていきました」。次第に、春以外の季節の花や仏さまを目的に訪れる人が多くなり、厄年になったときに岡寺のことを思い出すという人も。それらが参拝者の増加につながっていきました。

岡寺は檀家を持たない巡礼のお寺。「ご参拝の方に来ていただかないと、文化財やお寺を守っていけません。お寺を知っていただき、足を向けていただく。そのための情報発信は、生命線の一つです。入口は広い方がいい。お花でも仏さまでも。まずは岡寺を知っていただくことが大切なんです。『飛鳥といえば岡寺』と名前が出てくる存在になれたら嬉しいです」。

インスタグラムを始めて今年で10年。時代に合った方法でファンを獲得し、フォロワー数は2万5千人に。荘厳で美しい写真が人々の心を捉えています。



岡寺インスタグラムの人気写真

上）毎年春に登場する天竺牡丹の「華手水舎」。全国の花手水の先駆けといわれています。
下）5月から7月に開催される「あぢさゐ回廊」。美しいアジサイが境内を彩ります。

インスタグラムの写真はすべて川俣さんが撮影。愛機は富士フイルムのミラーレスカメラ。

川俣海雄さん。お寺のなかでいち早くホームページやソーシャルメディアを使った情報発信を行う先駆者。

岡寺（高市郡明日香村岡806）
飛鳥時代、天智天皇の勅願により義淵僧正（ぎえん.そうじょう）によって創建された古刹。本尊は如意輪観音座像（重要文化財）。奈良時代作で、日本最大の塑像（そぞう/土でできた仏像）。「厄除けの観音様」として信仰されています。

TOPICS

季節ごとに授与される期間限定の御朱印帳が今年も登場！ 春は天竺牡丹、夏はアジサイ、秋は紅葉・ライトアップなどがモチーフ。デザインは毎年変わるので要チェックです。写真は2024年版の「天竺牡丹御朱印帳」。2025年版は3月末頃からGW明け頃まで授与予定。

@OKADERA3307
岡寺公式 Instagram

病をみる、人をみる、地域をみる

明日香村で、村民の健康を守る医師・武田以知郎さん。
へき地医療に長年携わってきた経験を生かし、
地域住民との交流や在宅医療、後進育成に尽力しています。
村民のかかりつけ医として信頼を集める「イチロー先生」に
医療を通して感じた飛鳥の魅力をお聞きしました。

明日香村民から親しみを込めて「イチロー先生」と呼ばれる武田さん。2023年に武田さんの医療現場に400日間密着したドキュメンタリー映画『明日香に生きる』が公開されました。

武田 以知郎
たけだ・いちろう

昭和34年(1959)奈良県御所市生まれ。自治医科大学卒業。奈良県天川村国民健康保険南日裏診療所所長、奈良県立五條病院へき地医療支援部長兼小児部長などを歴任。明日香村国民健康診療所管理者。近畿地域医療支援センター長。第12回日本医師会赤ひげ大賞を受賞。

※「赤ひげ大賞」とは日本医師会などが地域医療に尽力する医師を表彰する賞。

診察室には子どもの興味を引くおもちゃやフィギュアが並べられています。

在宅・終末期医療と看取りをテーマにした漫画『はっぴーえんど』(小学館)の作者で、親交のある魚戸おさむさんが描いた武田さんのイラストが看板に。

先生にとって飛鳥はどのような場所ですか?

奈良県御所市出身の僕にとって、飛鳥は子どもの頃から憧れの地。昭和47年(1972)高松塚古墳が発見されたときは、翌々日に父親と見に行ったんです。平成22年(2010)から明日香村国民健康保険診療所で働いていますが、15年経った今も飛鳥特有の空気感に癒されています。

昨年「赤ひげ大賞」を受賞されました。

赤ひげ大賞は憧れだったので、今までの取組を村の人たちに認めてもらったようで嬉しい気持ちです。明日香村は人口5000人ほどで、うち4割が高齢者。診療所に来てもらうだけでなく、村内を車で往診にまわり、訪問看護師やケアマネジャーらとともにフンチームで在宅医療に取り組んでいます。

明日香村に赴任した当初はドラマ「ドクターコトー」にちなんで「ドクターイチロー」と自称していました。「そうだ、京都行こう」ならぬ「そうだ、診療所行こう」というキャンペーンも張っていて、例えば足にできものができたとき、整形外科か皮膚科かどちらに行くべきかと迷ったら「とりあえず診療所行こう」と思ってもらえるようにしていました(笑)。

医学生や研修医など後進の育成にも力が注がれていますね。

飛鳥は学生や研修医に地域医療を教えるのにちょうどいい規模なんです。すぐ隣の橿原市には奈良県立医科大学もあり、学生や研修医を育てやすい環境。診療所としても、僕一人で診療を続けているよりも、絶えず研修医が来たり大学との連携を行うことで診療レベルが上がるんです。後進たちとともに飛鳥や奈良県の医療をよりよくしていけたらと思っています。

地域医療で一番大切にされていることは何でしょうか?

常々大切にしているのは、「病をみる、人をみる、地域をみる」。ただ病気を治すだけでなく、その人自身や家族を見て、飛鳥の地域全体を見ていくことをモットーにしています。診察時、農家の患者さんが作られている野菜の話をしたり、お孫さんの話をしたり。飛鳥に住む生活者として接することが診療の第一歩。その人の日々の暮らしや人生の歩みを知り、生き方に寄り添うことが、いい治療につながっていくと思っています。

令和あすか塾《特別講座》番外編

渡来系氏族・東漢氏と檜隈寺

帝塚山大学
清水 昭博
昭和41年(1966)宮崎生まれ、京都で育つ。大阪市立大学文学部卒業。博士(文学)。奈良県立橿原考古学研究所主任研究員・同研究所附属博物館主任学芸員を経て、現在、帝塚山大学文学部教授、同人文科学研究科長、同考古学研究所長、同附属博物館長。専門は考古学、飛鳥時代の瓦に関心をもつ。主な著書は『飛鳥の古代寺院』(萌書房、2023年)など。

謎多き古代寺院

応神朝に渡来した阿智使主を祖とする渡来系氏族・東漢氏はその本拠である飛鳥檜隈の地に寺を建立した。檜隈寺(道興寺)である。『日本書紀』朱鳥元年(686)の条に「檜隈寺・軽寺・大窪寺に各百戸を封ず、三十年を限る」という記録があることによって、少なくとも天武天皇の時代に檜隈寺が存在したことがわかる。しかし、檜隈寺の建立を記す同時代の史料はない。

一方、坂上田村麻呂が建立した京都清水寺の鎌倉時代の縁起は、坂上氏が治めた寺として檜隈寺を取り上げ、先祖である阿智使主が下賜された土地に建立した寺とする。坂上氏は「東漢坂上直」(『日本書紀』欽明31年)を名乗っており、当時、坂上氏が檜隈寺を祖先である東漢氏が建立した寺と認識していたことがわかる。

檜隈寺の所在について、江戸時代(享保19年)に出版された『大和志』は檜隈村の十三重石塔(平安時代)がある於美阿志神社(明日香村檜前)とする(写真①)。阿知使主を祀る於美阿志神社の寺跡が檜隈寺の遺跡であることは、寺の名と同じ檜隈の地域に立地する唯一の古代寺院跡であることからみて間違いないであろう。

写真① 於美阿志神社(筆者撮影)

写真② 講堂跡の瓦積基壇(画像提供／奈良文化財研究所)

写真③ 飛鳥時代の瓦(画像提供／奈良文化財研究所)

飛鳥で唯一の瓦積基壇

檜隈寺にみられる渡来系的要素に講堂跡で検出された「瓦積基壇」がある(写真②)。瓦積基壇とは通常に使用する石でなく瓦を積んで基壇の外装とするもので、そのルーツは朝鮮半島の百済(韓国忠清南道)にある。瓦積基壇は百済の滅亡(660年)を契機に日本に伝来した技術とみられ、近江や山背の渡来系氏族が建立した寺を中心に分布する。現状、飛鳥では檜隈寺だけで採用されており、檜隈寺を渡来系氏族・東漢氏の寺とみる考えを補強する。

檜隈寺の発掘調査では飛鳥時代から鎌倉時代の瓦が出土している。最も古い瓦は日本最古の寺である飛鳥寺(588年建立、明日香村飛鳥)などと類似した7世紀初頭の素弁蓮華文軒丸瓦である(写真③下段中央)。続く7世紀中頃の瓦には百済船の造船のために東漢氏の人物である倭漢直県(やまとのあやのふみのあがた)を安芸へ派遣したという『日本書紀』の記事(白雉元年条)との関係が想定される安芸の横見廃寺(広島県三原市)と同じ笵(同じ木型)を使用して製作された単弁蓮華文軒丸瓦がある(写真③下段左)。7世紀後半の瓦には、大和葛城地域の渡来系氏族・朝妻氏が建立した二光寺廃寺(奈良県御所市)と同じ笵の複弁蓮華文軒丸瓦がある(写真③上段左)。また、藤原宮(奈良県橿原市)と同じ笵による7世紀末～8世紀初頭の複弁蓮華文軒丸瓦も出土し(写真③上段右)、『日本書紀』にみられる朱鳥元年の国による財政支援後の造営の一端を垣間見ることができる。

檜隈寺に関する古代の史料は『日本書紀』朱鳥元年の記録があるのみで、檜隈寺がいつ建立されたのか史料からその詳細を知ることはできない。そうしたなか、檜隈寺跡から出土した瓦積基壇などの遺構や出土瓦などの遺物は、渡来系氏族・東漢氏が建立した檜隈寺の造営事情を雄弁に物語っているのである。

■飛鳥の若びと

飛鳥地域プロガイド・岡本直子

夢だった飛鳥に移住。愛あふれるプロガイドに

小学生のときに遠足で訪れた飛鳥に魅了され、「いつか住みたい!」と憧れるようになった岡本直子さん。もともと歴史好きで大学は考古学を専攻。ウェブデザイナーなどを経て結婚し、子育てを機に、夢だった飛鳥に移住しました。

移住後、飛鳥の観光に関わる仕事をしていたところ、新設された明日香村認定の「飛鳥地域プロガイド」を知ります。ガイドの経験はありませんでしたが、飛鳥好きで歴史好き、人と話すのが好き、アイデアや企画を考えるのが好き。「これらすべてを生かせるのがガイドだ」と思い立ち、プロガイドに応募します。80名を超える応募者の中から令和6年、第1期生の5名に選ばれました。

岡本さんの強みは体験などを盛り込んだツアーの企画力。たとえば日本仏教はじまりの地を巡るツアーでは、仏教と共に伝来したお香にちなんだオリジナル塗香作りを行い、好評を得ました。

「飛鳥は不思議な求心力があるところ。歴史のストーリーとそれに伴う景色がある。飛鳥時代と変わらないかたちで見られるのは胸アツですね。いろんな人に魅力を発信したいし、地元の人たちにもあらためて価値を知ってもらいたいです」。“飛鳥の案内人”としての活躍、ますます楽しみです。

1) 岡本直子さん。飛鳥地域プロガイド。眺望のいい奉牛子塚古墳にて。
2) ツアーの様子。写真は2024年に催行された「辰の年!飛鳥の龍に出会う旅」。
3) いつも「飛鳥石」を持ち歩き、実際にお客さんに触ってもらいながら石の説明をしています。
4) ツアー客に配布する岡本さん作成のレジュメ。
5) 小中学生用の「明日香学」の地域教材。ツアー中お客さんにお見せすることも。

飛鳥と『万葉集』ゆかしき言の葉

飛鳥にある二つの歌碑

采女の　袖吹き返す　明日香風
都を遠み　いたづらに吹く　(巻一・五一　志貴皇子)

明日香村内にはこの歌の歌碑が、甘樫丘の中腹と国史跡「飛鳥宮跡」に建てられています。なぜ2箇所にあるのか、その理由もご存じでしょうか。

前者は犬養孝揮毫で1967年、後者は平山郁夫揮毫で2009年に建立されました。その間に、歌に詠まれた「都」(飛鳥浄御原宮)が、旧説の明日香村埋蔵文化財展示室あたりではなく、「飛鳥宮跡」に該当することが判明し、同じ歌の碑が新たに建てられる契機となりました。

作者である志貴皇子は、天智天皇の子として生まれ、奈良時代初頭に没しました。この歌は藤原京遷都後に詠まれたと記されています。日本初の本格的な中国式都城であった藤原京は、いわば律令制に基づく中央集権国家の具現化であり、以降は皇子といえども天皇以外は厳然と区別されたようです。天皇に仕えた采女たちの煌びやかな袖を翻していた風が、今はただむなしく吹いている、と以前の政治体制を知る皇族として隔世の感を表現したと考えられています。

奈良県立万葉文化館
井上さやか
博士(文学)。専門は「万葉集」を中心とした日本文学・日本文化。現在、奈良県立万葉文化館企画・研究係長。著者に「万葉集からみる「世界」」(新典社)など。

甘樫丘にある万葉学者・犬養孝揮毫の歌碑

飛鳥宮跡にある日本画家・平山郁夫揮毫の歌碑